

活動名	平成26年度 森林・水産研究会 現地見学会 (CPD 番号 26-7)
主催	岩手県支部 森林・水産研究会
日時	平成26年10月10日(土) 9:00 ~ 15:00
場所	(株)ウツティかわい区界発電所, 宮古市川井地区国道106号~340号沿い
参加人数等	19人(本部9名 非会員3名 技術士以外7名)

活動内容

1) 木質バイオマス発電所見学

(講師: (株)ウツティかわい

発電所長 澤田所長)

株式会社ウツティかわいの木質バイオマス発電所において所長の澤田氏より、木質バイオマス発電の施設概要、および発電の仕組みなどのご説明を頂いた。

なお、ご説明を頂いたあと、質疑応答の時間を設けていただいた。参加者からは、発電出力や発電の際に発生した熱量の利活用、発電に用いる木質バイオマス等についての質問がなされ、それらに対して、澤田所長より回答をいただいた。



木質バイオマス発電所外観

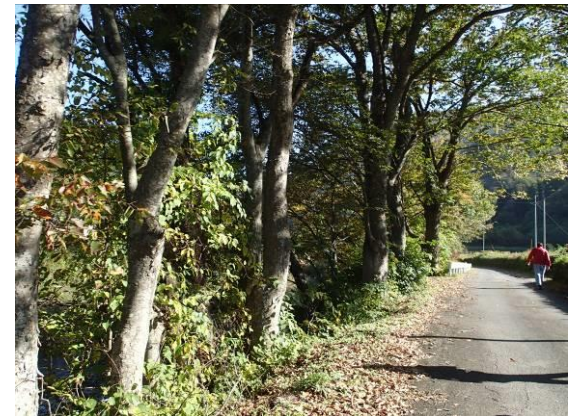
2) 宮古市川井地区の古木・名木・大樹等の保存木見学

(講師: 森と緑の研究所 村井所長・古澤氏)

宮古市川井地区の国道106号~345号沿いに点在している、古木、名木、大樹等の保存木を見学した。森と緑の研究所村井所長および古澤氏により各名木について説明がなされた。

見学した大樹の中で最も大きいものは、八坂神社のケヤキであった。胸高直径は2mを超え、樹高は約30mとなり、岩手県内で8番目に大きな樹木とされている。

保存木は寺社の境内に存在している場合が多く、樹木信仰の対象や、集落のシンボリックな存在として、保存されてきた場合が多いようである。また、旧宮古街道のケヤキのように街道のガードレール的な役割を担ったケースも見られた。



旧宮古街道ケヤキ並木

3) 感想

日本でもまだ例の少ない木質バイオマス発電所を見学でき、近年注目されている循環エネルギーの活用について見識を深めることが出来た。

また、普段何気なく通過している国道脇に存在する名木・巨木を見学することで、人と樹木の関わり合いについて見識を深めることができた。



八坂神社のケヤキ大木前で記念撮影

— 以上 —

文責 山岡